

練馬子ども議会報告書



令和6年度（2024年度）

練馬区

ごあいさつ

練馬区教育委員会

教育長 三浦 康彰



練馬区では、中学生が区政や区議会、選挙の仕組み、練馬区についての理解を深めることを目的として、毎年夏に「練馬子ども議会」を実施しています。

今年度は、区立中学校33校、都立中学校1校から各1名選出された34名の子ども議員の皆さんから、「いじめ問題」、「SNS依存」、「子育て」、「防災」について、区への提言発表がありました。

この提言は、子ども議員の皆さんが約1か月にわたって議論や調査を行い、グループ相互に意見交換を行ってまとめ上げた成果です。また、生涯学習センターで行われた子ども提言発表会においては、多くの傍聴者の前でスライドを用いた発表やお芝居を交えた発表を行うなど、貴重な体験ができたと思います。

子ども議員の皆さんは、この経験を生かし、普段から物事に問題意識を持ち、具体的に考える習慣を身に付け、自分達で解決策をみつける力を磨いていただきたいと思います。

結びにあたり、中学生の皆さんがこれからの練馬区を共に築いていくことを願うとともに、皆さんの更なる成長と今後の活躍を大いに期待しています。

目 次

◆ 令和6年度練馬子ども議会の開催について	2
◆ 令和6年度練馬子ども議会子ども議員名簿	4
◆ 練馬子ども議会が開催されるまでの経緯	5
◆ グループ紹介	11
◆ Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～	12
◆ 未来につなげ隊 ～SNSとの共生～	14
◆ One for Nerima Nerima for one	16
◆ Go To Tomorrow ～命を守るために～	18
◆ 練馬子ども議会開会宣言	21
◆ 意見交換会	25
◆ 子ども提言発表会	35
◆ 「様々ないじめについて」	38
Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～ グループ	
◆ 「SNS依存について」	42
未来につなげ隊 ～SNSとの共生～ グループ	
◆ 「より子育てしやすいまちを目指して」	46
One for Nerima Nerima for one グループ	
◆ 「防災について」	51
Go To Tomorrow ～命を守るために～ グループ	
◆ 会議録署名	59
◆ 資料	
◆ 令和6年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票	62
◆ 過去の提案等に対する区での取り組み	66
◆ 子ども議員へのアンケート集計結果	67

令和6年度練馬子ども議会の開催について

1 目的

(1) 区政に関する意見の聴取

中学生が日頃疑問に思っていること、子ども議員として希望や意見などを表明する場を提供するとともに、区政に反映させる機会とする。

(2) 区政や区議会、選挙の仕組みについての学習

区政や区議会の仕組みを学習するとともに、選挙の仕組みについて理解を深め、区政への関心を高める機会とする。

2 実施内容

(1) 開催期間

ア 学習会 令和6年6月29日（土）～令和6年7月25日（木）【4回】

イ 開会宣言・意見交換会 令和6年7月25日（木）

ウ 子ども提言発表会 令和6年8月1日（木）

(2) 子ども議員

区立中学校および国・都・私立中学校生徒 40名程度

(3) 学習会、意見交換会、子ども提言発表会等

ア 事前学習

タブレットを活用した区政および区議会制度、選挙制度の事前学習

イ 学習会（6月29日、7月6日・22日・25日）

地域調査、提言発表等について学習会（4回）を区役所内会議室等で行う。

ウ 開会宣言・意見交換会（7月25日）

議場にて開会宣言を行う。

全員協議会室にて提言（案）を発表し、子ども議員間で意見交換を行う。

エ 子ども提言発表会（8月1日）

生涯学習センターホールにて区に対して提言発表を行う。

オ 報告書

練馬子ども議会の報告書を作成し、区内小中学校等に配布する。

3 子ども議員の推薦および子ども提言発表会の周知

(1) 子ども議員の推薦

区立中学校（全 33 校）、区内の国・都・私立中学校（6 校）に子ども議員の推薦を依頼する。

(2) 子ども議員の決定

区立中学校から 33 名、都立中学校 1 名の推薦があり、合計 34 名の子ども議員が決定。

子ども議員は、調査、提案したいカテゴリーごとに、1 グループ 7～10 名で構成する 4 つのグループに分かれる。

所属するグループの決まった子ども議員は、調査、提案したい内容について事前学習を行い、学習シートを提出する。

(3) 子ども提言発表会の周知

区報（7 月 21 日号）、区ホームページ、SNS および教育だより等により周知する。

令和6年度練馬子ども議会子ども議員名簿

グループ名	テーマ	氏 名	ふりがな	性別	中学校名	学年
Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～	様々な いじめについて	片岡 賢冴	かたおか けんご	男	豊玉中学校	2
		原田 優那	はらだ ゆうな	女	開進第四中学校	2
		黒川 和桜	くろかわ あいさ	女	光が丘第三中学校	2
		和泉 杏	いずみ こう	女	石神井中学校	2
		岡田 悠	おかだ ゆう	男	大泉第二中学校	2
		河橋 和奏	かわはし わかな	女	大泉西中学校	2
		野中 菊実	のなか きくみ	男	関中学校	2
未来につなげ隊 ～SNSとの共生～	SNS依存について	飯坂 絢	いいさか あや	女	旭丘中学校	2
		松田 咲笑	まつだ さえ	女	開進第三中学校	2
		松下 裕美	まつした ひろみ	女	貫井中学校	2
		栗原 杏美	くりはら あみ	女	豊溪中学校	2
		堀田 真由	ほりた まゆ	女	石神井南中学校	2
		坂井 花帆	さかい かほ	女	南が丘中学校	2
		高城 美妃	たかしろ みさき	女	三原台中学校	2
		西村 もも	にしむら もも	女	大泉学園中学校	2
One for Nerima Nerima for one	より子育てしやすい まちを目指して	牧野 優花	まきの ゆうか	女	中村中学校	2
		秋山 智琉	あきやま さとる	男	開進第一中学校	3
		八木 隆斗	やぎ りゅうと	男	練馬中学校	2
		井用 寛人	いよう ひろと	男	光が丘第二中学校	3
		酒井 里奈	さかい りな	女	石神井東中学校	2
		林 眞子	はやし まこ	女	上石神井中学校	2
		増田 結梨	ますだ ゆうり	女	谷原中学校	2
		高木 菜名花	たかぎ ななか	女	大泉中学校	2
		萩野谷 由奏	はぎのや ゆかな	女	大泉北中学校	2
		金子 准生	かねこ じゅんせい	男	八坂中学校	2
Go To Tomorrow ～命を守るために～	防災について	西松 佳音	にしまつ かのん	女	豊玉第二中学校	2
		木谷 充伸	きたに あつのぶ	男	開進第二中学校	2
		金子 陽人	かねこ はると	男	北町中学校	2
		細野 寧音	ほその ねね	女	練馬東中学校	2
		佐藤 深海	さとう しい	女	田柄中学校	2
		中込 理桜	なかごみ りお	女	光が丘第一中学校	2
		岡本 遥斗	おかもと はると	男	石神井西中学校	2
		佐々木 瑠唯	ささき るい	女	小中一貫教育校大泉桜学園	3
		藤井 悠翔	ふじい ゆうと	男	都立大泉高等学校附属中学校	2

練馬子ども議会が開催されるまでの経緯

事前学習

区議会・選挙制度について

タブレットを活用し、区政や区議会の仕組み、選挙権や選挙の種類、投票の方法などを学習しました。

第1回学習会

6月29日(土)

10:00～16:00 <区役所多目的会議室>
33名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】

開会挨拶

こども家庭部長 関口和幸から子ども議員へ激励の挨拶。



自己紹介とアイスブレイク

グループごとに自己紹介とアイスブレイクのミニゲームをしました。



練馬子ども議会について

議論の進行方法や提言発表会のやり方、地域調査のインタビュー内容など子ども議会の具体的な内容について学びました。

グループ別学習会

- ①グループ長と書記を決めました。
- ②事前学習シートを参考に話し合い、提言発表のテーマを決めました。
- ③第2回学習会で行う地域調査の調査場所および調査内容を決めました。



第2回学習会

7月6日(土)

10:00 ～ 16:00

33 名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【地域調査】

地域の人たちの話を聴く、事前に調査した内容を持ち寄るなど、地域の事象を調査し課題を捉える。

① Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～ グループ

いじめ問題に関する練馬区の取り組みやアンケート調査の実態など各自でインタビュー結果や調べてきた内容を持ち寄り、現状や課題について話し合いました。



② 未来につなげ隊 ～SNSとの共生～ グループ



SNSによるいじめやSNS依存について各自で学校の先生へのインタビューや調べてきた内容を持ち寄り、現状や課題について話し合いました。

③ One for Nerima Nerima for one グループ

光が丘なかよし児童館で職員や利用者にインタビューし、子育てに関する悩みや児童館について調査しました。その後、調査した内容をグループ学習でまとめました。



④ Go To Tomorrow ～命を守るために～ グループ

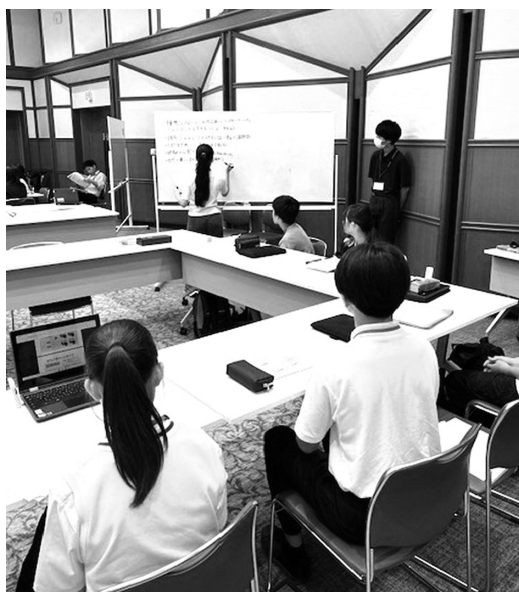


防災学習センターで職員にインタビューし、防災に関する区の取り組みや発災時に中学生ができる取り組みについて調査しました。その後、調査した内容をグループ学習でまとめました。

【グループ別学習会】

地域調査のまとめ

タブレットパソコンを活用し、意見交換や調べ学習を行い、まとめた内容を深掘しました。



第3回学習会

7月22日(月)

10:00～16:00 <練馬区職員研修所>

32名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【全体会】

議長・会議録署名議員の選出

立候補者を募り、議長・会議録署名議員を決めました。

【グループ別学習会】



第2回学習会で話し合った内容をまとめ、提言発表の原稿を作成しました。また、発表に使用するスライドの作成など発表に向けた準備を進めました。

第4回学習会

7月25日(月)

9:00～16:00

<本会議場・全員協議会室・区役所多目的会議室>

31名の子ども議員が出席しました。

(主な実施内容)

【練馬子ども議会開会】 9:15～9:45



議場で開会宣言し、会議録署名議員の指名、会期・議題を決定しました。

【意見交換会】 10:00 ～ 12:00



各グループが提言（案）を発表し、他グループからの質問に答えました。

【グループ別学習会】 13:00 ～ 17:00



意見交換会で出た意見を参考にグループで話し合い、発表原稿をブラッシュアップしました。
発表に向けたリハーサルをしました。

子ども提言発表会

8月1日(木)

13:30 ～ 15:30 <生涯学習センター>

34 名の子ども議員が出席しました。



生涯学習センターで、区に対してグループで提言発表を行いました。
各グループの発表について教育長から講評を受けました。

※傍聴

当日は一般の方も傍聴することができます。子ども議員の保護者など 81 名の方が傍聴しました。

グループ紹介



Aim for ZERO IZIME

～目指せいじめのない練馬区～グループ

「様々ないじめについて」



グループメンバー

片岡 賢冴（豊玉中学校） 原田 優那（開進第四中学校）
黒川 和桜（光が丘第三中学校） 和泉 杏（石神井中学校）
岡田 悠（大泉第二中学校） 河橋 和奏（大泉西中学校） 野中 菊実（関中学校）

ファシリテーター

岩崎 知也
（議会事務局庶務係）
元木 高明
（こども家庭部青少年課育成支援係長）



発表練習の様子

テーマ： 様々ないじめについて

調査内容

- ・アンケートはどこが実施しているのか。
- ・練馬区独自の調査はしているのか。

テーマについての現状

- ・年に3回以上アンケートをしている。
- ・対人とインターネットのいじめがある。
- ・スクールカウンセラーがいる。
- ・相談室がある。

課題・問題点

- ・気楽に相談ができない。(相談室などの) 利用が少ない。
- ・アンケート調査で実態がつかめない。本当のことを書けない。
- ・先生に相談できない。・いじめを見て見ぬふりをしている。
- ・インターネットの使い方がわかっていない。

解決策の検討

- ・アンケートを簡単に、無記名にする。
- ・担任の先生に見られないようにする。
- ・学校でプリントを配布し、いじめについて学習させる。ポスターを掲示する。
- ・相談室に行きやすくするために、パソコンで(相談室あてに)手紙を書けるようにする。
- ・インターネットの使い方を教える啓発ポスターの掲示やプリントの配布をする。

解決策を実現するための方法・手段

- ・(相談室やカウンセラーの) 相談可能な日を増やす。
- ・アンケートに答えやすくするため、パソコンで実施する、アンケートに答える時間を設けるなどの工夫をする。
- ・相談室にポストをつくり、相談室の利用をしやすくする。

自分たちができること

- ・相談員さんと話してみる。
- ・いじめに関するポスターやプリントを作成する。
- ・インターネットの使い方の学習会を開く。

未来につなげ隊 ～SNS との共生～グループ

「SNS依存について」



グループメンバー

飯坂 絢（旭丘中学校） 松田 咲笑（開進第三中学校） 松下 裕美（貫井中学校）
栗原 杏美（豊溪中学校） 堀田 真由（石神井南中学校） 坂井 花帆（南が丘中学校）
高城 美妃（三原台中学校） 西村 もも（大泉学園中学校）

ファシリテーター

黒澤 柚葉
（教育振興部学務課管理係）
小峯 寛大
（こども家庭部青少年課育成支援係）



意見のまとめの様子

テーマ：SNS 依存について

調査内容

- ・いじめについて先生に質問する。
- ・地域の方に SNS 依存や地域との関わりについて質問する。

テーマについての現状

- いじめの対応
 - ・被害者を優先する。・加害者に話を聞く。
 - ・環境を変える。・双方の意見を聞く。
- SNS 依存の現状
 - ・全国中高生で SNS 依存の疑いがある人が 93 万人
 - ・新型コロナで増えた。
 - ・遊ぶものや場所が減って SNS に触る機会が増えた。

課題・問題点

- ・SNS 依存による、いじめの発生
- ・生活習慣の乱れ、不安定な精神状態、体調不良

解決策の検討

- ・SNS 依存の恐ろしさを知ってもらう。
- ・SNS の正しい使い方を知ってもらい、依存の対策をしてもらう。
- ・体面による人との交流を増やす。

解決策を実現するための方法・手段

- ・ポスターや標語を作成する。(アニメや漫画とコラボすることで興味をもってもらう)
- ・セーフティー教室を行う。
(調べ学習、発表を行い、理解を深める)
- ・SNS 依存対策機能を利用してもらう。
- ・各家庭で SNS の利用期限、制限をつける。
- ・体育館の開放で対面での交流を促す。
- ・親同士の関わりを増やす。
- ・SNS から離れる機会を増やす。

自分たちができること

- ・SNS によって失われたコミュニケーション能力を高めるために、挨拶運動やボランティアに参加する。
- ・イベントの企画や運営をする。
- ・生徒会役員が中心となり、SNS について学ぶ機会をつくる。

One for Nerima Nerima for one グループ

「より子育てしやすいまちを目指して」



グループメンバー

牧野 優花（中村中学校） 秋山 智琉（開進第一中学校） 八木 隆斗（練馬中学校）
井用 寛人（光が丘第二中学校） 酒井 里奈（石神井東中学校）
林 眞子（上石神井中学校） 増田 結梨（谷原中学校） 高木 菜名花（大泉中学校）
萩野谷 由奏（大泉北中学校） 金子 准生（八坂中学校）

ファシリテーター

大村 雅弘
（こども家庭部保育課保育サービス推進係長）
山下 洋之
（こども家庭部青少年課育成支援係）



意見のまとめの様子

テーマ：より子育てしやすいまちを目指して

調査内容

- ・児童館で、館長、子育て世代にインタビューをする。
- (子育てに関する要望や困っていること)
- (児童館の役割)
- (今と昔の子育てに対する考え)
- (周囲の環境の変化)
- (どのくらいの頻度で利用しているか)

テーマについての現状

- ・おもちゃを年齢別で分けている。
- ・騒音に対してうるさいと苦情が入る。
- ・男性が子育てをする環境が整っていない。
- ・調乳室が少ない。・地下鉄などでベビーカーがづらい。
- ・2万円の給付金では、消耗品を買うと足りない。
- ・児童館で情報共有ができる。

課題・問題点

- ・騒音に対してうるさいと苦情が入る。(少しずつ遊びに制限がかかる)
- ・男性が子育てをする環境が整っていない。・調乳室が少ない
- ・大江戸線のベビーカーでの移動が大変。・ミルクやおむつの消耗品を買うとお金がかかる。
- ・体調が悪くなったとき、子供の世話が大変。

解決策の検討

- ・騒音
- 子供たちが遊ぶ場所や環境を改善する。屋内施設の充実。
- ・男性の子育て
- 調乳室を増やす。男性向けの子育てセミナーを開く。
- ・ベビーカーの移動 スロープを増やす。
 - ・お金がかかる
- 服のアップサイクルやフリーマーケットを利用する。
- ・体調不良時の子育て
- 熱を出しても行ける保育園をつくる。
- コミュニティーを増やす。

解決策を実現するための方法・手段

- ・公園のすぐ近くに児童館を設置する。
- ・男性向け子育てセミナーをレベル別に分ける。
- ・スロープを増やす。
- ・スーパーに古着回収ボックスをつくり、児童館に届ける。
- ・セミナーを通して両親ともに動けるようにする。
- ・子供をすぐに預けられる 24 時間 365 日移動の託児施設をつくる。

自分たちができること

- ・親に育ててもらったことに感謝する。
- ・家事を手伝う。
- ・ベビーカーの人に配慮する。

Go To Tomorrow

～命を守るために～グループ

「防災について」



グループメンバー

西松 佳音（豊玉第二中学校） 木谷 充伸（開進第二中学校）
金子 陽人（北町中学校） 細野 寧音（練馬東中学校） 佐藤 深海（田柄中学校）
中込 理桜（光が丘第一中学校） 岡本 遥斗（石神井西中学校）
佐々木 瑠唯（小中一貫教育校大泉桜学園） 藤井 悠翔（都立大泉高等学校附属中学校）

ファシリテーター

黒沢 菜々子
（教育振興部学校施設課管理係）
新藤 美月
（こども家庭部青少年課青少年係）
野原 啓吾
（こども家庭部青少年課春日町青少年館）



取材の様子

テーマ：防災について

調査内容

- ①災害の対応で中学生でも行えることを考える。
- ②東京で災害があった時の他県の支援
- ③先進的な取組を行っている自治体や学校は何をしているのか。

テーマについての現状

- ・中学生一人だけでは動けない。
(知識がない、対応しきれない)
- ・十分な物資が届けられていない。
(道路が壊れる、人手不足、燃料不足)
- ・危機感がない。防災訓練を真面目に行っていない人がある。(話している人がある、遊び半分でやっている)

課題・問題点

- ・支援物資が届くのが遅い。支援するのにお金がかかる。
- ・中学生の災害に対する知識が少ない。中学生が被災地に行くのは危ない。
- ・警報に慣れてしまっている人が多い。地震が起きた時の具体的な行動を教わっていない。

解決策の検討

- ・防災について知ってもらう機会を設ける。
- ・防災訓練をもっと頻繁に行う。
- ・交通状況を確認して、他県からの支援者に伝える仕組みを整備する。
- ・家具転倒防止などの呼びかけを行う。

解決策を実現するための方法・手段

- ・ポスターの設置
- ・実践する大切さを知ってもらうクイズで学ぶ。
- ・防災資料を渡す。
- ・防災デーを設ける。
- ・全校朝礼で防災について話すなどで情報を拡散する。
- ・SNS を利用して発信してもらう。
- ・防犯カメラなどの映像をリアルタイムで見られるようにする。(交通状況把握)
- ・ボランティアを募集する。

自分たちができること

- ・家具転倒防止など防災に関する呼びかけを行う。
- ・ポスターの作成、アンケートの作成
- ・学校で地震について発表する。
- ・ボランティア活動に協力してもらう。

練馬子ども議会 開会宣言



令和6年度 練馬子ども議会開会宣言座席表（議場）

青少年 課 長	議 長（秋山）
------------	---------

演 壇

Go To Tomorrow
～命を守るために～
グループ

未来につなげ隊
～SNSとの共生～
グループ

Aim for ZERO IZIME
～目指せいじめのない
練馬区～
グループ

One for Nerima
Nerima for one
グループ

	西松	木谷	金子
	細野	佐藤	中込
	岡本	佐々木	藤井

飯坂	松下	片岡	原田
栗原	堀田	黒川	和泉
坂井	高城	岡田	河橋
松田	西村	野中	

牧野	金子	八木	
井用	酒井	林	
増田	高木	萩野谷	秋山

練馬子ども議会・開会宣言

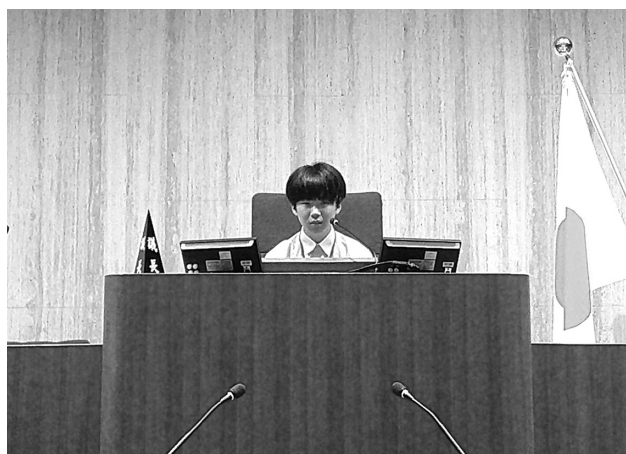
令和6年7月25日(木) 9:15～9:45

青少年課長

ただいまの出席議員数、30名でございます。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、
開進第一中学校3年、秋山智琉です。
よろしくお願いします。
ただいまから、練馬子ども議会を開会します。
直ちに、本日の会議を開きます。



秋山 智琉 議長

会議録署名議員の指名

議長

まず、会議録署名議員を議長より指名します。
野中菊実議員、堀田真由議員、高木菜名花議員、西松佳音議員、以上4名の議員にお願いします。
次に、練馬子ども議会の会期についてを議題とします。
子ども議会の会期は、本日および8月1日の2日間としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

子ども議員

異議なし

議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども議会の会期は、本日および8月1日の2日間とすることに決定しました。
次に、子ども提言(案)について、第1提案「様々ないじめについて」、第2提案「SNS依存について」、第3提案「より子育てしやすいまちを目指して」、第4提案「防災について」が提出されています。
子ども提言(案)につきましては、この際、直ちに意見交換会を開催し付託したいと思いますが、これにご異議はありませんか。

子ども議員

異議なし

議長

ご異議なしと認めます。よって、子ども提言（案）につきましては、これから全員協議会室で開催する意見交換会に付託することを決定しました。

以上で、本日の日程は終了しました。

これをもって、散会します。

意見交換会



練馬子ども議会・意見交換会

令和6年7月25日(木) 10:00～12:00

「様々ないじめについて」

Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～ グループ

Q. いじめアンケートを無記名にしまうと、誰が助けを求めているのか分からなくなってしまうのではないのでしょうか。

A. アンケートは無記名に限定せず、名前、詳細な内容を記載する欄も設けることを考えています。いじめの内容が重大なものであれば先生が生徒に対し、聞き取り、指導、面談を行うことで実態を掴むことができます。

Q. 令和4年度の小中学校のいじめ件数 1,499 件のうち、どのくらいが解決できたのでしょうか。

A. 発表した件数はいじめの認知件数なので解決件数は不明です。調べて改めて回答します。

Q. 総合学習の時間にいじめについて調べ、発表するとのことでしたが、ふざけている人やいじめに加担している人は真面目に取り組まないのではないのでしょうか。

A. 調べ、発表することを通していじめ問題を認識してもらうことはできます。また、プリントを配布することで知ってもらう機会を増やせると考えます。

Q. いじめに関する調べ学習では具体的にどのような内容を扱うことを想定していますか。

A. いじめの加害者になることで将来にどのような影響がでるのか、また暴力によるいじめやインターネット上のいじめなどいじめの種類について調べ、考えることを想定しています。



Q. いじめのアンケートをデジタル化しても教室で実施すれば周りの目が気になってしまう問題は起こってしまうと思いますが、どのような対応を考えていますか。

A. デジタルアンケートはその場での回答だけでなく、休日に自宅で回答するなど、場所、時間を問わず回答できるようにします。

Q . 相談室を不安や悩みのある人が自由に入れる場所にするとのことでしたが、実現に向けてどのようなことを進めていくのですか。

A . 相談室に入りやすくする具体的な方法については、グループで検討しているところです。

Q . 相談室の開放日が少ない理由は何と考えていますか。

A . 相談室の開放日が少ないのは、スクールカウンセラーの学校に来られる日が週に2日程度と少ないことが原因であると考えます。

Q . 加害者にもいじめの影響が及ぶとのことでしたがどのような影響が及ぶのでしょうか。

A . いじめが発覚すれば先生から加害者生徒に対し指導が行われることが考えられます。場合によっては罪に問われることも考えられます。

「SNS依存について」 未来につなげ隊 ～SNSとの共生～ グループ

Q. 部活や勉強で忙しい学生を学校外で行う講習会やイベントにどのように呼び込むのですか。また、参加者数が少ない場合はどのように対応しますか。

A. 学校で手紙を配布するなどして参加者を募ります。参加者が集まらなかった場合は延期等対応することを考えています。

Q. SNS依存症になってしまっている人の具体的な症状は何がありますか。

A. 体力の低下、骨密度の低下、不眠症、うつ病等があります。

Q. SNSで失われたコミュニケーション能力を取り戻すためにボランティア活動を企画するとありましたが、SNSに依存してしまっている人が積極的に参加しているイメージが湧きません。どのようにして参加者を増やしますか。

A. 練馬区にお願いして学校の活動の中に地域の方と関われるものを増やしてもらうことを考えています。



Q. 2泊3日のキャンプについて、参加者が集まらないと思うのですが、対策はありますか。

A. 宿泊を伴う校外学習のように学校行事として実施することを想定しています。

Q. 家族同士の関わりを増やすことで地域のイベントを実施しやすくするとのことでしたが、SNS依存に陥りやすい若者は家族と積極的に関わることを避けるのではないかと思います。その場合の対応を教えてください。

A. 家族だけではなく友人やクラブチームなどでの交流を増やすことも視野に入れて考えています。

Q. 交流を増やすために体育館を開放するとありましたが、SNSに夢中になって家に籠っている人が急に体育館に行くイメージが湧きません。もう少し段階を踏む必要があると思いますがいかがでしょうか。

A. SNSの中で人のつながりはあると思いますので、友人同士で来てもらうことは可能と考えます。前段階の取り組みについてはグループ内でまとめ直します。

Q. 薬物依存に近い状態であるSNS依存の人が啓発ポスターを見ただけではSNSをやめられないと思うのですが、いかがですか。

A. 依存の状態にも程度があると思いますので、少し依存気味という程度の人には興味をひかれるポスターによる効果はあると考えます。

Q. 生徒会役員でSNSについて講習会を開催するとのことでしたが、忙しい中で定期的に講習会を行うのは難しいのではないかと思います。どのように考えますか。

A. 定期的には実施しますが、年間に開催する回数を少なく設定すれば生徒会役員でも対応できると考えます。

Q. 漫画やアニメのポスターを制作するとありましたが、誰がポスターを作るのですか。

A. 練馬区に作成をお願いして、区内の学校で掲示することを考えています。

「より子育てしやすいまちを目指して」
One for Nerima Nerima for one グループ

Q. コミュニティをつくるためにアプリを開発するとのことでしたが、そのアプリを多くの人に知ってもらう取り組みは考えていますか。

A. 区のホームページで発信する、ポスターを作成するなどを考えています。

Q. 服のリユースを促進するためのアイデアとして返礼品がありましたが、返礼品の用意は誰が行うのですか。また、返礼品の中身を決めるのは誰ですか。

A. 返礼品について誰が用意するのかはグループで回答がまとまっていなかったため改めて検討します。

Q. 解決策としてアプリ開発や古着回収ボックスの作成を挙げていましたが、それらの費用を児童手当に充てればよいではないでしょうか。

A. 練馬区は子どもの人口が多いため児童手当にこれ以上予算を充てることは難しいと考えました。子どもが多いのであれば、児童服の古着が多く集まると考え、リユースを提案しました。



Q. アプリ開発について、質問や要望を伝えるのに専用のアプリを使うよりインターネットのYahoo!知恵袋のような質問板などを利用するほうが早く回答を得られるのではないかと思います。アプリを開発するのにも費用がかかると思うので、アプリならではの良い点を教えてください。

A. コミュニティ内での交流や区とのチャットなど様々な機能を1つにまとめることで一つ一つ検索することなく簡単にできるようになります。

Q. 児童館を公園の近くに設置するとありましたが、児童館を建設するのに莫大な費用が掛かってしまうという点についてはどのように考えますか。

A. 児童館を新たに建設するのにはお金がかかります。今あるものを建て替える際に考えていくことになると思います。

Q. アプリ内での少人数の話し合いではアバターを使用するとありましたが、自分のアバターをアプリ内で作るということですか。

A. アバターをアプリ内で作成し、操作するという想定です。

Q. 父親向けの子育てセミナーを開催するとありましたが、認知度を上げ、利用者を増やす工夫はありますか。

A. 子育ての基本を学べるコースと応用を学べるコースで講座を分けることに加え、父親が集まれる場をつくれます。

Q. 子どもの騒音について、子どもがふざけて大声を出すこともあると思います。公園の近くに児童館を置くことはそういった騒音の解決につながるのでしょうか。

A. ふざけて大声を出す子どもに対して児童館の職員が注意することもあるようです。

小さい子どももいるので公園のように親が近くで見守れる環境があると、騒音問題の解決につながると考えました。

「防災について」
Go To Tomorrow ～命を守るために～ グループ

Q. 防災講座の参加者に中学生が少ないとありましたが、中学生に参加を促す取り組みなどは考えているのでしょうか。

A. 中学生の参加者を増やす取り組みは、グループで検討します。

Q. 大規模で実践的な避難訓練を実施することを提案していましたが、普段実施している避難訓練との違いは何ですか。

A. 通常の避難訓練は机の下に隠れた後、校庭に避難するという内容で実施しています。実践的な訓練というのは、炊き出しや避難所のトイレ体験など避難後の行動を含めた内容を考えています。

Q. 中学生が物資の運搬を手伝うというのは具体的にどのような手伝いをするのですか。

A. 避難所の近くまで運搬された物資を避難所の物資を保管する場所まで運ぶ手伝いをするということです。

Q. 10億7,500万円の中で防災をテーマにしたポスターコンクールや実践的な避難訓練を実施することでしたが、この10億7,500万円は何の予算ですか。

A. 防災経費の予算として練馬区ホームページ等に記載がありました。

Q. 学校で地震について話し合いの場を設け理解を深めるとありましたが、どのような内容を話し合うのでしょうか。

A. もし地震が起こったらどこに避難しているかなど、家族と事前に話し合っている内容を共有する。また、事前に準備しておく物について話し合うことを想定しています。



Q. 学校での防災訓練を頻繁に行うことについて、雨天が続いてしまうこともあると思います。雨天時の対応はどのように考えていますか。

A. 学校によって判断が異なると思いますが、校庭ではなく体育館で実施するなど室内で実施することが考えられます。

Q.雨天時の対応について、学校で異なる対応になるのであれば、学校同士で雨天時の防災訓練の実施について情報を共有してもらうというのはいかがでしょうか。

A.学校によって設備やマニュアルは異なると思いますが、情報の共有は良い案と思います。いただいた案を参考に検討します。

Q.防災学習センターに来る人のほとんどが高齢者であることについて。防災学習センターで講座や体験ができるとしても来る人が少なければ防災意識は高まらないと思います。どのようにして防災学習センターを知ってもらい、講座などに参加する人を増やすのですか。

A.学校の調べ学習で防災学習センターが実施している講座やイベントを知ってもらい、友達や家族に共有してもらうことで参加者を増やせると思います。

子ども提言発表会



令和6年度練馬子ども議会子ども提言発表会 次第

令和6年8月1日(木) 13:30～

生涯学習センターホール

子ども提言発表会

(1) 開会

(2) 提言発表

提言1 Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～ グループ
テーマ「様々ないじめについて」

提言2 未来につなげ隊～SNSとの共生～ グループ
テーマ「SNS依存について」

提言3 One for Nerima Nerima for one グループ
テーマ「より子育てしやすいまちを目指して」

提言4 Go To Tomorrow ～命を守るために～ グループ
テーマ「防災について」

※グループごとに、提言発表を行います。

(3) 講評

(4) 閉会

練馬子ども議会・子ども提言発表会

令和6年8月1日(木) 13:30～15:30

青少年課長

ただいまの出席議員数は34名でございます。

議長

本日の議長を務めます、練馬子ども議員、開進第一中学校3年、秋山智琉です。よろしくお願いします。

ただいまから、本日の会議を開きます。

これより、令和6年度、練馬子ども議会子ども提言発表を議題とします。

意見交換会での審査の結果、今年度の子ども提言は、「様々ないじめについて」、「SNS依存について」、「より子育てしやすいまちを目指して」、「防災について」の4つとなりましたので、報告を求めます。順次発言を許可します。



議長

「Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～」グループ、お願いします。

「様々ないじめについて」
Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～ グループ



これから「Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～」グループの発表を始めます。
私達は「いじめ」をテーマにこの練馬区の現状や課題を調べ、解決策を考えました。
突然ですが、今から画像を用いたデモンストレーションを行います。

「Nってテスト何点だった?」

「言わないよ。」

「どうせ低かったんだろ、頭悪そうだし。」

「やめてよ。」

「事実だろ。」

「そんなことない!」

「じゃあ点数言ってみろよ?」

Nからの返信はあれから途切れた。どうせテストの点を教えたくなくて強がっているのだらうと思っていた次の日...

「速報です。東京都練馬区に住んでいる中学2年生のNさんが行方不明になりました。警察は行方を探しており、目撃情報を集めているとのことです。」

「なんだって!?!」

まさかNが、行方不明なんて...



現在、主ないじめとして暴言・暴力などの対人的いじめと、先程のデモンストレーションのように友達の不適切な内容の写真を拡散したり、悪口・嫌なことを書いたりするインターネットによるいじめの二つがあります。先程のデモンストレーションのように、インターネットのいじめは、対人的いじめと同じくらい人を傷つけます。またそれらは年々増えており、令和4年度には練馬区内の小中学校で1256件。中学校では243件起きており、日本全体でも社会問題となっています。それらをなくして行くために学校では年に3回以上いじめアンケートというものを行っています。さらには「相談室」が設置されており、不安や悩みがあるときに相談する場所として主に使われています。

相談室では、「スクールカウンセラー」という人が配置されていて、悩みを聞いてくれたり、心に寄り添ってくれたりします。

そしてここで、スクールカウンセラーについてのデモンストレーションを行います。

「Nのやつ、ほんとめんどくさいよな。」

「ねー。ほんと、めんどくさい。」

「今日もK君とYさんにいじめられた... 悲しい、悔しい... どうすれば止めてくれるんだろう.....。」

今日もいじめられて悲しんでいるN君、そんな彼に1枚のチラシが降ってきました。

「何ッ... !!! 相談室!? どんなものかはわからないけど、行ってみよう!」

次の日N君は初めて相談室へ行ってみました。そこには、優しい相談室のおばさんが待っていました。

「大丈夫かい?」

「同級生のK君とYさんにいじめられたんだ。絶対許さない。」

「じゃあ、その子達にガツンと言ってやるんだ!」

「うん!!!!」

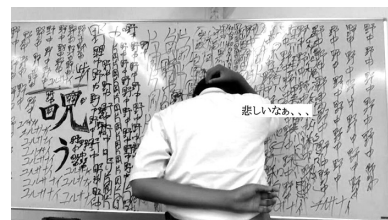
次の日...

「今日もNのやつをいじって遊んでやろう。おいN! ...N?」

「私は負けぬ。」

「うわあ!」

「何だ!?!」



このように、スクールカウンセラーは、みんなに安心と勇気を与えてくれます。

しかし、この相談室やいじめアンケートにも課題があります。

主な課題として、

- ・相談室などに行って気軽に相談できない
- ・いじめアンケートではいじめの実態やクラスの現状が掴めない
- ・いじめアンケートがいじめの発端につながる
- ・先生方へ相談できない

といったものがあり、アンケートや相談室以外にも、

- ・いじめを見て見ぬふりする傍観者がいる
- ・インターネットの使い方がわかっていない

といったものがあります。

また相談室を利用したい場合、担任の先生などを通して事前に予約をしないといけない学校も

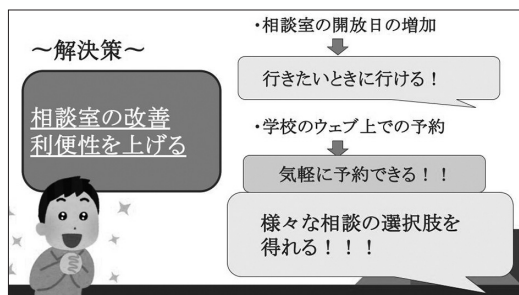
あります。そうすると先生にはあまり言いたくないという生徒は非常に利用しづらいです。その他にも私達の学校ではスクールカウンセラーが来る日が週に二回しかないため、相談をするタイミングが限られてしまいます。

また、現在練馬区の公立小中学校では生活アンケートでいじめの実態を掴もうとしていますが、現在は記名制になっているため本当のことを書きにくいという問題があります。また、アンケートに「はい」と答えるとその下に詳細を書く仕様になっており、詳細を書くのには時間がかかってしまいます。そのことから内容を全て書くことを諦めたり、周りになにか書いていることが分かってしまい新たないじめの標的となったりする可能性があります。このように現在行われている取り組みにも致命的な欠点があることが分かります。

いじめの対策では、「アンケートの簡略化」「生徒の意識の強化」が重要です。そこで私たちは、3つの解決策を考えました。

1つ目はいじめアンケートの方針を改善することです。具体的には classroom や google フォームを使いデジタルアンケートをつくることです。これにより先生が回収しに来ることに対しての焦りや、周りの目を気にする必要がなくなります。他にはアンケートを無記名にすることがあげられます。これにより、気軽にアンケートに書いた内容を相談でき、いじめ以外にも日頃の悩みを記入する事ができます。勿論、無記名にしても加害者及び関係者の名前を出せば、いじめの内容を割り出せます。これにより家でも簡単にアンケートに回答する事ができます。また、自由記入欄をつくることで、クラスの実情をよく知ることができます。この対策により、アンケートが簡単かつわかりやすいものになります。

2つ目は、総合的学習の時間に先生と共に学級の生徒がいじめについてスライドショーを元に調べ学習や発表を行うというものです。しかしスライドショーを使った学習をしても効果がない人が出てきてしまうと思われませんが、被害者、加害者、傍観者がいじめは良くないことだとわかるようにする目的で、効果がない人がいても、被害者、加害者、傍観者の誰かに訴えかけることができれば良いと思います。発表を行うのは、声に出す事により、効率的に頭に知識が入るからです。その後まとめのレポートを書いてもらい内容がわかりやすくなるようにします。さらに、授業終了後にスライドショーの内容をまとめたプリントを配布することで内容を振り返ることができ、より効果的です。



3つ目は、相談室の利便性を上げるということです。具体的方法としては、スクールカウンセラーや相談員の人たちが来る日が少ないという課題に対して来る日や人を増やしたり、学校のウェブサイト上での予約をできるようにすることで。この方法であれば、一部の学校で起きてしまっている、「担任の先生を通し事前予約が必要であるため、相談室に行き

づらくなってしまう」という課題を解決することができます。相談室などに行って気軽に相談できないというプレッシャーを感じたり、「学校の相談室自体に抵抗がある」という人は、学校のウェブサイト上に予約のリンクを貼ることで、「学校以外の教育相談室や教育支援センターにもいじめを相談することができる」ということを知ることができます。WEBで相談室の予約を行う事によって、行きた

いときに行けるようになり、相談室の利便性が上がると思います。この2つの対策により、相談室を気軽に利用できるようになり、「あなたの身近にはたくさん相談できる場所がある」ということを知ってもらえるきっかけになります。

これらを踏まえて私達ができることは、生徒の意識を向上させる呼びかけです。現在練馬区が発表している、「SNS 練馬区ルール」には SNS の使い方、「デジタルリーフレット」にはいじめや悩みの相談先が載っており、対人いじめやネットいじめの対策にとっても役立ちます。しかし、自分から調べる人が少なくあまり人目に止まっていないため、学校の classroom や朝学活・終学活の時間で呼びかけをすることで効率良く生徒達に知識が伝達出来ます。いじめの相談先の他にも、「加害者へもいじめの影響が及ぶ」という事を伝えれば、より生徒の心に響きます。さらに、加害者の心構えを変えていく呼びかけもすることで、被害者だけでなく加害者の意識も向上させ、最終的にはいじめのものを減らすことに繋げることができます。

そして最後に、加害者についてのデモンストレーションを行います。

「N ほんとうざいって書きこもうぜ! あはは。」

「いつも絡んできてだるいとかも書きちゃおう! あはは。」

「つらい、つらいよ...。」

しかし、その日の加害者たちの家では...

「こんにちは。警察です。あなたたちには、N さんをいじめた容疑がかかっています。」

「え!? 警察!? いじめ!?!」

「私達は N の悪口を書き込んだだけです?」

「刑法 230 条名誉毀損罪・侮辱罪で逮捕します。署までご同行願います。」

「こんなことしなきゃよかった...。」

「そんな〜。僕はただ趣味を全うしていただけなのに...。」

このようなことにはなりません、いじめはとても良くない行為だと加害者に伝わるような声掛けが大切です。



これで「Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～」グループの発表を終わります。

議長

ありがとうございました。それでは次の発表に移ります。

「未来につなげ隊～SNSとの共生～」グループ、お願いします。

「SNS依存について」 未来につなげ隊～SNSとの共生～ グループ



私たち、「未来につなげ隊～SNSとの共生～」グループは、SNS依存について提案します。

みなさんは「SNS依存」という言葉を知っていますか。SNS依存とは、SNSがないと落ち着かない状態のことをいいます。現状では、全国の中高生約650万人のうち、約93万人がSNS依存の疑いがあると言われています。また、コロナ禍により外出ができなくなったことで、2020年～2022年の時点でSNS依存の人数は10代の17.0%、20代の9.8%からも更に増えていました。SNS依存になると食事、入浴、睡眠が疎かになりがちで、栄養失調や骨粗鬆症になる人が増えています。最近では86時間連続でネットゲームをプレイし続けた男性が死亡するという事件が韓国で起きました。また、ネットの接続状況が整わないことによってイライラして他人にあたってしまういじめもあります。更に、SNS依存状態の脳は薬物依存状態の脳と同じ状態になっていることもわかっています。薬物依存はとても危険で、日本では大麻や覚醒剤などの薬物は使用を禁止されています。そんな危険な状態の脳と同じ状態になっているということです。練馬区は学校によって、標語やポスターの制作を募集したり、セーフティ教室を行ったりしていますが、すべての学校が行っているわけではありません。

今回、私達はSNSとの共生のためにグループ全員が自分の学校の先生にいじめについて質問し、地域の方にはSNS依存対策である、対面での人との関わりについての質問に協力してもらい、調査しました。そこから次に述べるいくつかの課題を見つけました。

1つ目は、体や心の問題です。低栄養、体力低下、骨密度低下、不眠症、感情がコントロールできない、うつ病になるなどの問題点があります。

2つ目は、家族的、社会的問題です。家族関係の悪化、遅刻、不登校、成績不振、退学などがあります。

次に課題についての解決策を述べます。



1つ目に、SNS 依存の恐ろしさとは SNS を長時間利用することで、生活習慣が崩れたり、体や心に支障が出たり、SNS のトラブルに巻き込まれたりしてしまうということです。また、SNS が利用できない環境でのストレスによって、人にあたってしまうなど自分以外の

人も巻き込んでしまう可能性もあります。そして、SNS 依存により、人との交流の場が減り、言語能力、コミュニケーション能力の低下などが見られます。そのようなことから、SNS の恐ろしさを知ってもらうことが大切だと思います。具体的な方法として SNS 依存について実際に調べ学習をし、SNS 依存の恐ろしさを再確認しながら、考えを深めることです。その中で言語能力・コミュニケーション能力の向上も見込めます。また、ポスターや標語の作成を行い、多くの人に SNS 依存について知ってもらうことも方法の一つです。SNS 依存は思春期・青年期の若者に多いことから、アニメや漫画のイラストを使い、注目してもらうなどの方法があります。SNS の恐ろしさをより詳しく知ってもらうには、実際に起こった事例や注目を集め、身近なものから情報を得ることが大切だと思います。

2つ目にスマホ依存対策に活用できる、機能について3点紹介します。

第一にスクリーンタイムを利用すること

スクリーンタイムとはスマホやアプリの使用時間の確認やアプリの使用制限ができる機能のことです。使用状況を確認することで、スマホの使いすぎを知るきっかけとなります。

第二にグレースケールモードを設定すること

グレースケールモードとはスマホの画面に表示されている全ての情報がグレーになる機能のことです。これにより、スマホを見る意欲が低下します。また、ブルーライトの影響が減少し、目の疲れや睡眠の質を改善するという研究報告があります。

第三にスマホ依存対策アプリを活用すること

ゲーム感覚で楽しめるタイプや使用時間を計測してくれるものなど様々なタイプがあり、自分にあった無理なく続けられるアプリを選択することができます。しかしスマホは娯楽のためでなく本来は連絡手段や情報を得るためのツールとして作られたものです。このアプリを使うときは仕事や学校がない日、勉強に集中したいテスト期間中に使うのがおすすめです。上記を学校で配布される手紙に記載して普及していくのはどうでしょうか。

3つ目にコミュニケーション能力が低下するという問題については、対面での人との交流を



増やすことが対策になると考えます。そうすることで、インターネットから離れる機会ができるとともに、人と会話することが増えます。具体的な方法としては、学校で体育館開放を行う、家族同士の関わりを増やすなどがあります。学校で体育館開放を行うことで、地域の方々やクラブチーム、友人との関わりが増えます。また、地域でイベントを行ったりすることで企画・運営の大変さや多様な人との上手な関わり方を学ぶことができると思います。家族同士の関わりを増やすことで地域の方と協力したイベントを実施しやすくなると思います。

SNSから離れるために私達にできること。

- ・生徒会の主催の講習会
- ・SNS依存についての調べ学習や発表会
- 自分で調べて発信することで理解が深まる！！



最後に、生徒会役員が SNS についての講習会を開き、SNS を学び、発表する機会を設けることを提案します。SNS についての講習会とは具体的に、生徒会が SNS の正しい使い方や危険性などを伝えることです。生徒会が講習会を開くことで生徒会側も改めて

SNS について理解することができ今後にも繋げていくことができると考えました。また、講習会を聞くだけでなく、SNS について自分たちで発表する機会を設けることで、SNS について興味関心を持ち、SNS の危険性などについて更に考えを深めることができると考えました。実際に話を聞いているだけでは、つまらないと感じてしまったり、実感がわからないなど、内容が入ってこなかったりすることがあるため、自らが考え、学びそして発信することが SNS を理解できる取り組みになると思います。

また、あいさつ運動や地域の方たちと関わることをできるボランティア活動の企画運営をしたり、ポスターや標語などを自分たちで作ったりすることで SNS に依存した人たちの、失われたコミュニケーション力を高められると考えました。地域の方たちに限らず、人と対面で交流することで、言葉を喋る力が高まったり、SNS から離れることができたりして、それによって心と体が落ち着き、退屈や孤独という感情の減少が見られます。ボランティア活動とは具体的に清掃運動、ゴミ拾い、エコキャップ回収、ユニセフ募金のことです。他にも職場体験や運動会などで、地域の方にお世話になっている感謝の気持ちを伝える機会も設けられると良いと思います。



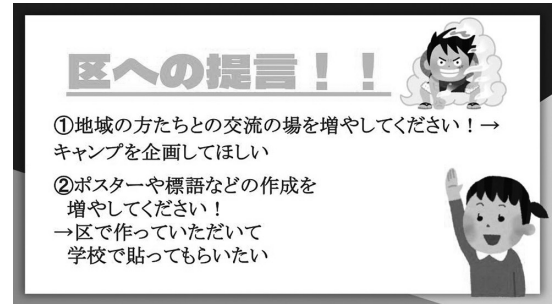
ですが、私達だけでは出来ないことがあるので練馬区へ二つ提言します。

1つ目は、地域の方たちとの交流の場を増やしてください。実際に兵庫県が行っている島でのキャンプを参考に、自然がたくさんある練馬区の施設であるベルデで SNS を触らない2泊3日のキャンプを企画してもらいたいです。

2つ目は、ポスターや標語などの制作を増やしてください。漫画やアニメのコラボで小中学生の興味がそそられるようなポスターを制作して、依存の恐ろしさを知ってもらい危機感を持ってもらいたいです。

このような対策で SNS 依存者を少しでも減らして、SNS をうまく使える人を増やし、よりよい未来に繋げていきたいです。

以上で「未来につなげ隊～ SNS との共生～」グループの発言を終わります。



議長

ありがとうございました。

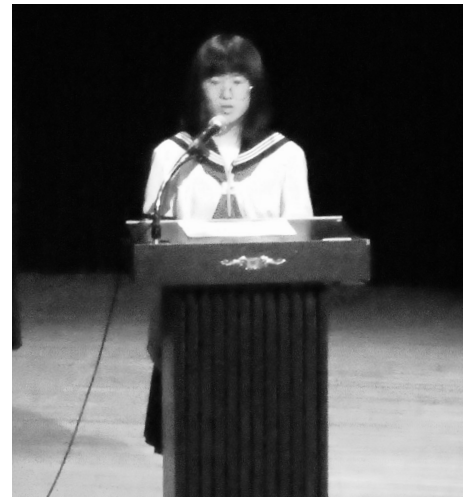
この際、以降のグループ発表に参加したいので、副議長の和泉議員と交代いたします。

副議長

ここからは、副議長を務めます、練馬子ども議員、石神井中学校2年、和泉杏が議長の職務を行います。よろしくお願いします。

それでは、次の発表に移ります。

「One for Nerima Nerima for one」グループ、お願いします。



「より子育てしやすいまちを目指して」
One for Nerima Nerima for one グループ



私達「One for Nerima Nerima for one」は、「より子育てしやすいまちを目指して」について提案します。

私達の住んでいる練馬区は現在4年連続待機児童ゼロを達成し、医療費・給食費の無償化など、比較的子育てがしやすいまちだと言えます。ですが、課題もあり、少子高齢化などがまちの活力の衰退に繋がりがねません。

それでは、今より子育てをしやすいまちをつくるためにはどうしたら良いか？光が丘なかよし児童館へ伺い、館長や子育て世帯の親にインタビューをして困っていることや要望などを調査している子ども議員の様子をお届けします。



まずは館長さんにインタビューしたいと思います。

「子育てについて昔と変わったと思うところはどこですか？」

「近隣の方からの苦情が増えました。昔は子どもの声が聞こえると「元気でいいな～」と近所の方も受け入れていましたが、今は子どもが遊ぶ音や声がうるさいと考える人が増えています。」

1つ目は、子供たちの遊びによる騒音についての問題が起こってしまうことです。児童館や学校の周辺は子どもたちの遊び場が多く、「遊ぶときの音や声に対しての苦情が入ることがある」と児童館の館長がおっしゃっていました。それにより、現状では屋外で遊ぶことに制限がかかってしまっています。そのため、なかよし児童館ではテラスで遊ぶことのできる時間を決め、近隣の住民と児童館の共存を図っています。

あ、あそこに子連れの方がいました。お話を聞いてみましょう。

「子育ての上で困っていることやあったらいいなと思うことはあります



か?」

「親同士でのコミュニティが少ないことです。悩みを共有できるコミュニティの場をもっと増やしてもらえればと思っています。」

2つ目は、コミュニティが少ないということです。児童館の利用者は親同士で情報共有ができますが、この街に来たばかりの方や第1子を産んだばかりの方はどのようなコミュニティがあるのかあまりわかりません。そのため、児童館やぴよぴよへ行くことを促すチラシや広告を作成したりしています。練馬区ではLINEの公式アカウントやInstagramで子育てなどの情報発信をしています、まだまだ認知度が低いようです。



次は男性の方にも質問してみましょう。

「子育てで困っていることはありますか?」

「女性が育児をすることが多いので、イマイチ何をすればいいのかがわかっていないです。なので、父親が集まるような場を設けてほしいです。」

3つ目は、最近は男性の育児休暇取得率が増加傾向にありますが、男性が子育てしやすい環境には程遠いということです。確かに、なかよし児童館で男性の方にインタビューをすると、「どのように子育ての手伝いをすれば良いのかわからない」という声が多かったです。練馬区では、現在練馬イクメン講座を行っています。「イクメン」とは、育児をするメンズ、すなわち子育てを積極的に行う父親を指す言葉です。この講座は、父親が育児や家事に積極的に関わることができるよう、父親自身が育児や家事について学ぶ講座のことです。まだまだ認知度は低く、利用者も少ないです。そのため、しっかりとした環境を整えることが必要です。

そろそろ時間がなくなってきました。最後にもう1人だけお話を聞いてみます。

「練馬区にしてほしいことはありますか?」

「今は練馬区から児童手当で1万5,000円、東京都から給付金で5,000円の合計2万円の支給がありますが、消耗品を買うとすぐに無くなってしまいます。もう少し、児童手当を増やしてほしいです。月2万円では、おもちゃや、自分の買いたいものが買えません。」

4つ目は、親が自分に費やす時間とお金が少なく、やりたいことができないということです。現在、練馬区は3歳未満の乳幼児に対して、児童手当として1万5,000円、東京都は5,000円支給してい

ます。児童手当とは中学生までの児童を養っている人に支給される手当のことです。しかし、これらはおむつや粉ミルクなどで使い切ってしまい、その他の洋服やおもちゃなど子育てに必要なものが買いつらい状況だということが、子育てをしている方へのインタビューで分かりました。そのため、親自身が自分かけられるお金が減り、結果子育てがしにくくなっています。しかしながら、練馬区の3歳未満の乳幼児は1万5,000人以上なので、子ども手当だけで練馬区の支出は2億3,000万円をこえています。ですので、これ以上児童手当を増やすことは難しいと考えます。

以上の問題点を解決するための提案に移らせていただきます。

簡潔に解決策を言うと、主に4つあり、公園の近くに児童館を置く、新しいアプリの開発、男性用セミナーを開く、古着回収を行うことが挙げられます。

まず、1つ目の子どもたちの遊び声によって騒音問題が起こってしまうことについては、子どもたちを元気に遊ばせたいと考える人の意見を尊重した上で、子どもたちの遊ぶ場所や環境を改善し、屋内施設を充実させることで、改善できると思います。ですが、自分で判断できる年齢になれば、周りに迷惑をかけていないか考えることは必要です。そのため、故意に迷惑をかけている子どもには注意を促し、今後同じようなことが起こらないようにしているそうです。

遊ぶ場所を改善するための具体的な方法としては建て替えを行う際に、大きな公園のすぐ近くに児童館を置くということが挙げられます。大きな公園は住宅地から離れているので、騒音が気になることはありません。また、児童館と公園の行き来が楽になるため、子どもを外で遊ばせたい人にとって便利な環境になると思います。今すぐというわけにはいかないですが、次に建て替えるときに考えるというように考えています。



2つ目のコミュニティが少ないことについては児童館などの現在備わっているコミュニティに加え、オンライン空間によるコミュニティを作り併用することで、より多くの人が参加しやすくなると思います。

具体的にはコミュニティをつくるために専用のアプリを開発します。このアプリにいれる4つの機能を考えました。

(1) アバターを利用したバーチャル空間での交流です。

この機能についてはオンライン Office アプリ MetaLife を参考に考えたものです。まずアプリの利用者にアバターを設定してもらい、それを操作することで会話をすることができます。アバター同士が近づくと話すことができ、離れると話せなくなるような機能となっています。また、アバターを動かしてアプリ内のテーブルにつくことで複数人での交流ができます。

(2) 大人数での交流です。

アプリ内の URL をワンタップで話ができるサイトに飛ぶことができます。交流は決まった時間内のみで、主催者に個人的に意見を送り、それに対して主催者が答える形で行います。

(3) メッセージによる交流です。

話し合いを行っていないときに LINE のオープンチャットのノートのようなものに意見や質問を上げ

てもらい、それに対してコメントで返信してもらいます。また、大人数での話し合いに参加できなかった方が何を話したのかを知るために、議事録も上げます。

(4) 練馬区との一対一のチャットです。

すぐに返信してほしいときや、正確な回答を得たい場合に使用します。練馬区の公式 LINE を想定してもらうと分かりやすいと思います。



今まで説明してきた4つの機能はもともと LINE や Yahoo! 知恵袋などのすでにあるものと似ていますが、一つ一つ検索して出すという時間をかけるよりは一つのアプリにまとめて、すぐに見たいサイトに飛ぶことができる方が利便性が高く、利用しやすくなると思います。加えて、練馬区が情報の管理をするのでセキュリティ面でも安心して利用することができます。また、アプリの認知度をあげるために、次に述べる男性向けセミナーやびよびよ、児童館での宣伝を行うことを考えています。

その他にも意見交換会で「アプリ開発の費用があるのなら、子育て支援にその分を当てたら良いのではないか」という意見がありましたが私たちのグループはアプリ開発の方を推奨します。理由としては、子育て支援は定期的に出費が必要になりますが、アプリは一度開発すればそれ以降の費用が抑えられるためです。



3つ目の男性が子育てをする環境が整っていないことについては、男性向けの子育てセミナーを行うこと、調乳室を増やすことが挙げられました。そうすることで、男性が子育てに協力でき、女性も子育てがしやすい環境になると考えます。具体的に、セミナーは「子育てについて、何もかもわからない方向け」と「子育てにある程度慣れてきて、さらにレベルアップしたい方向け」という2つのコースをつくります。また、セミナーとは別に父親だけが集まり、悩みなどを共有する場を開くことで、モチベーションの維持、向上につながると思います。最初は認知度が低いと思いますが、児童館にチラシを置いておくとか、知り合いに教えるとかそういったことを行えば、認知度が上がり、たくさんの方が利用すると思います。調乳室については地域調査から、数が少なく外出の際に困った経験があると分かったので、調乳室を増やすことで男性が育児に参加しやすい環境を整えられると思います。

4つ目の育児にお金がかかるということについては、解決策として服のリユースを推奨することで服にかかる費用を少しでも減らすことができます。具体的には古着回収ボックスを設置し、集まった服を児童館などで無償で親御さんに提供する事業です。回収ボックスの設置場所は区役所や地区区民館だけだと提供する側の移動の手間が増えてしまうため、区内のスーパーに協力をしてもらいスーパーに回収ボックスを設置し、そこに集まっ



た服を児童館に送るという形が良いと思います。そして希望者は児童館から無償で服を手に入れることができる仕組みにします。

率先して提供してくれる人を増やすためのアイデアも考えたので説明します。まず回収ボックスに服を入れると、入れた着数に応じてコインが落ちてきます。そして、隣に置いたガチャにコインを入れると、ガチャが回せます。ガチャは2つ設置し、1つはおもちゃが入っているもの、1つは練馬区に関係するもの（例えば図書カードや、区内500円商品券など）が入っているものです。特に商品券などは、使うと練馬区の他の場所にお金が回ることになるので、児童手当を増やすより効果的です。区にはこの提案の実現や、商店街の活性化に向けて商品券を今より多く発行してもらいたいと思います。

最後に、私達は「家事の手伝い」や「子連れの方への配慮」は自分たちにできることだと考えます。「家事の手伝い」というのは具体的に、洗濯や部屋の掃除機がけ、食器洗いなどの手伝いのことです。共働きも多く、子育てをするうえでお金や負担は非常にかかります。それゆえに、少しでも負担を減らし、両親への感謝の気持ちを示すため、家事の手伝いをすることが自分たちのできることだと考えます。

また、家事を代行して手伝いをするベビーシッターという仕事があります。例えば、保育園の場合子どもを預けるだけですが、ベビーシッターの場合子どもの面倒を見てもらうだけでなく、家事をしてもらうこともできます。保育園だけでは補えないため、私達はベビーシッターを広めていくことが大切だと考えました。具体的には、大学生をターゲットとしてポスターやチラシの作成や、家族などの身の回りに大学生がいる人にベビーシッターのサービスを広めていくことです。例えばポスターやチラシは作ったものを各大学に送り、配ってもらいます。

次に、「子連れの方への配慮」をすることで、ベビーカー利用の方は移動や通行が楽になると考えられます。例えば、駅の段差やホームが狭くてベビーカーでの通行はしにくいです。段差や道の狭さは私達が変わえられることではないので、配慮が自分たちのできることだと考えます。

また、子連れの方への「気持ち」の配慮をすることも大切だと考えます。例えば、公共の場で赤ちゃんが泣いていても騒がしい、不愉快などと思わず、元気だな、仕方がないと思うなどの気持ちの配慮をすることも自分たちのできることだと考えました。

これらのことから、身の回りの些細な出来事に目を向けることでより子育てしやすいまちづくりができると思いました。

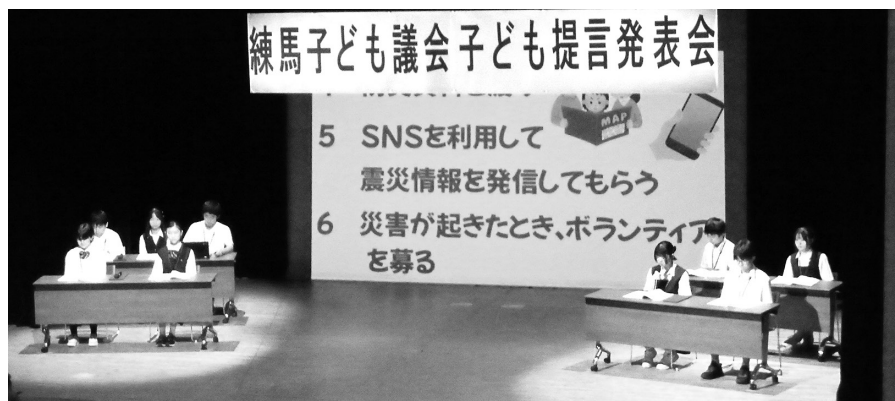
以上で「One for Nerima Nerima for one」グループの発表を終わります。

副議長

ありがとうございました。それでは次の発表に移ります。

「Go To Tomorrow ～命を守るために～」グループ、お願いします。

「防災について」 Go To Tomorrow ～命を守るために～ グループ



私達「Go To Tomorrow ～命を守るために～グループ」は、「地震が起きたときに中学生ができること」「他県からの支援、他の自治体への支援」「先進的な取り組みを行っている自治体の取り組み」について発表します。

私達の住んでいる練馬区は、防災について学べる施設や、避難拠点を運営している組織などがあり、防災に関する様々な活動が行われています。しかし、現状は何も知らない人が多いです。そのため地震が起きた時にパニックになってしまい、どんな行動を取ればいいのか分からなくなるので、中学生が避難所にいる人達のために働きかけるのは難しいと考えられます。また、中学生が被災地のためにできる対応として、支援物資を送ることや募金することなどが挙げられますが、ニュースではよく十分な物資が届けられていないという報道を聞きます。



そこで今回、私達は区民が防災に対してどれだけ関心があるのか、他県でどのような取り組みを行っているのかを調べて、私達ができることを探すために練馬区役所と光が丘の防災学習センター

に行ってお話を伺い、震災後に中学生ができることは何かを調査しました。

そこで次に述べる3つの問題点を見つけました。

1つ目は防災講座の参加者の中に中学生が少ないという点です。防災学習センターに来る人の多くは高齢者だそうです。親子で来る方も多いそうですが、中学生が自ら参加することは少ないと話していました。なので中学生にも来てもらうために学校での調べ学習の時に呼びかけなどを行います

2つ目は防災講座が中学校であまり実施されていないという点です。小学校では授業の一環として講座を受けるこ

防災センターの課題

Q.防災センターに訪れる人の年齢は？

A.高齢者が多いです。親子で来る方もいます。しかし、中学生が自ら訪れることは少ないため、課題に感じています。

Q.防災講座を区内全ての中学校に組み込むことは可能ですか？

A.可能です。ただ現状、授業の一環として講座を受ける中学校は少ないです。

とが多いそうですが、中学校はあまり多くないそうです。そのため、私達中学生は避難訓練で地震直後の行動は教わっても、防災の取り組みや避難所での生活、私達にどんなことが手伝えるのかを知る機会がありません。

3つ目は避難所での人手不足です。被災地で何ができるかを知っていれば行動することができますが、正しい知識を持つ人が少ないため支援員が足りず、支援の質、量ともに行き届かなくなってしまう。

そこで私達が考えた解決策、手段を発表します。それは、

- ・家具の固定を呼びかける。
- ・防災について知ってもらう時間を学校で設ける。
- ・災害時に対応できるようにするために防災訓練をもっと頻繁に実施する。
- ・災害時、ボランティアの育成をする。
- ・交通状況を確認して他県の支援者に伝える仕組みを整える。などです。

この中でも学校関連のことを中心として案を出してきました。他にも、私達のような子どもや大人も実行が可能なことを考えました。また防災訓練に関しては天気や学校の設備に応じて回数を決めて実施します。家具の固定については以前、防災センターに学びに行ったとき、100円ショップやホームセンターに売っている、突っ張り棒やふんばる君といったもので家具の固定ができるということを教えていただきました。突っ張り棒は主に天井と家具の間に入れて固定して使います、ふんばるくんの使い方は、落ちてきたら危険を感じたり、命に関わるかもしれないといった大きな家具の下に敷きます。それだけで、実際に地震が起きても怪我のリスクが少なくなります。また、避難所などといった場所に逃げるときに、素早い行動ができ一秒でも早く逃げ切ることができます。その他にも防災に対しての意識が上がると考えます。



先進的な取り組みとして滋賀県では、防災について誰でも情報交換や交流ができる Facebook グループを立ち上げました。その名も「しが防災ベース」。「しが防災ベース」を通じて、オンライン上で防災をテーマにした情報交換・交流を行う場を提供しています。「しが防災ベース」には、どこに住んでいる人でも参加が可能です。

その他に、広島県では避難のタイミングや避難先をあらかじめ決めるなどのことを目的とした出前授業などにより、災害が起こったときにどうするのかを教える機会を設けています。これにより広島県の防災計画、「ひろしまマイ・タイムライン」の告知にも繋がっています。

次に解決策を実現するための方法、手段について発表します。私達が考えたのは、

- ・ポスターの設置。
- ・防災についての大切さや、災害のリスクを知ってもらう。
- ・クイズで学んでもらう。
- ・防災資料を生徒たちに渡す。

・SNSを利用して他県の震災情報をリアルタイムで発信してもらう。

・地震などの災害が起きたときのボランティアを募るなどです。

その他にもたくさんの意見が出てきましたが、より重要な方法、手段をみんなで選びました。方法と手段でも学校関連のことが多く上がっていました。どちらも大人はもちろんですが、学生や子どもたちを中心に防災について正しい知識を持ってもらいたいという考えが私達にはあります。

練馬区のホームページによると、練馬区には今年度災害リスクに応じた、防災の加速化のための経費として約10億7,500万円あるそうです。その予算を活かして防災をテーマにしたポスターコンクールを開催や、地震がおこったことを想定し大規模な避難訓練を用意することを提案します。また、広島県が行っているような出前防災授業をできるだけ多くの中学校で行うことができればよいのではないかと感じました。

最後に私達ができることについて話し合い、考えてみました。

例えば、

・避難経路や避難拠点を確認することは、考えていないときよりも、避難を安全に、スムーズに 実行することができます。

・学校で災害についてのポスターやアンケートの作成。具体的には、避難訓練の意識向上や備えについて知ってもらい、生徒一人一人の知識を高めることができます。

・災害に対しての意識調査の実施をすることで意識を確認し、関心を高めることができます。

・避難所では物資の運搬を手伝うことによって現地の支援者の人手不足解消やより行き届く支援に変わります。

・子どもの遊び相手やお年寄りの話し相手をする事でコミュニティを安定させ、精神的孤立を避けることができます。

また、

・学校で地震についての備えや影響について話し合いなどで知識を深める。

・防災学習センターに行き体験、学習することは、実際に体験することによって危機感を高め実践的に学び、活かす事ができます。

防災訓練に真面目に取り組んでいない人には「めんどくさくても命に関わることだから、しっかりやろう」など声をかけると、避難訓練の重要性をわかってもらえ、いざというときにも素早く動けるようになります。また、話し合いでは避難所の場所や、被害想定などを調べて発表します。

今挙げたこれらを行うことによって、災害に対する危機感や災害の知識などを知ることができ、少しでも早く避難することができます。中学生は一人ではあまり動くことができないので、あらかじめ災

私たちにできること①

- 1 避難経路や避難拠点を確認する
- 2 学校で災害についてのポスターアンケートの作成
- 3 避難訓練の意識向上や備えについて知ってもらう



私たちにできること②

- 4 避難所で物資の運搬の手伝い
- 5 子供の遊び相手やお年寄りの話し相手をする



害があったときにはどのような行動を取るのか、どこに行けばいいのかなどを家族と相談しておくの良いと思います。

これらは、生徒や子供だけでなく大人にも知ってもらう必要のある取り組みでもあります。お子さんがいる家庭ではお子さんが、中学校や小学校で学んだ災害についてを家族に共有し災害についての意識や対策を改めることで、大人も子供も防災について深く知ることができます。防災学習センターでは災害が起きたときどうすればいいのか、一人のときにはどのような行動を取ればいいのかなど様々なことを学ぶことができます。ぜひ行ってみて体験して学んでみてください。避難所では避難した人全員に物資がいき届いてないので、物資の運搬を手伝うだけでもスムーズな輸送に繋がります。どんなことでも、たった一人の行動で命を繋ぐお手伝いになります。

以上で Go To Tomorrow ～命を守るために～グループの発表を終わります。

副議長

ありがとうございました。以上で、子ども提言発表を終了いたします。

それでは、練馬子ども議会で発言のあった、「様々ないじめについて」、「SNS依存について」、「より子育てしやすいまちを目指して」、「防災について」、以上の4つの子ども提言について、教育長から講評をお願いします。

三浦 教育長



皆さん、こんにちは。私は、練馬区教育委員会教育長の三浦康彰です。

まず、34人の子ども議員の皆さん、6月29日から本日まで5回にわたる子ども議員の活動、本当にお疲れ様でした。

皆さんは、本日の提言発表まで様々な学習をされたと思います。猛暑の中での地域調査も大変だったと思います。地域調査では保護者へのインタビューの他、児童館、そ

れから防災センターなどに実際に出向いて、いろいろな人の話を聞いてこられました。

現在はインターネットでいろいろな情報が手に入るようになりましたが、実際に現場に足を運んで、様々な人のお話を聞いて、現状を知ったり感じたりするということは、とても大切なことです。

こうして得た情報をもとに、様々な意見や提言をもらいました。

意見交換会は私も拝見させていただきましたが、自分たちでは気付かなかった視点を得られて、発表内容をさらに充実させることができたのではないのでしょうか。

皆さんが積極的に他のグループに対して鋭い質問をしている姿、質問に対してその場で考えて一生懸命回答している姿は、とても素晴らしく、実に頼もしく感じました。

では、発表されたグループ順に、それぞれ簡単にコメントをさせていただきます。

初めに、「Aim for ZERO IZIME～目指せいじめのない練馬区」グループです。こちらは、いじめを課題として発表していただきました。

いじめの当事者の立場に立って、いじめの相談をしやすくなるよう解決策を考えてくれたことは非常によかったです。

ちなみに、練馬区でも昨年、「ねりまホッとアプリ+」を導入して、スマホ、タブレットから、いじめをはじめ、様々な情報を匿名でも受けられるようにしています。

ICTを活用していじめアンケートの実施、スクールカウンセラーの予約を取りやすいようにする。具体的な提案ですね。これらはすぐにでも実践できることかと思いますので、非常によかったです。

それから、いじめ防止の啓発をICTの活用だけではなく、朝・終学活を利用して対面でも呼びかけようと提案してくれている点、広く伝えていきたいという思いが伝わりました。これらの点は非常によかったです。

それから、デモンストレーションですね。非常に良かったです。分かりやすくする工夫が見られました。

ただ、名誉毀損罪で突然警察に逮捕されてしまうというのは極端だったかなと思います。被害届

が出ているので、警察署でお話を聞かせてくださいというぐらいがよかったかとは思いますが、いじめ加害者も罰を受けるということを知らせようという意図は伝わりました。

練馬区教育委員会では、児童・生徒が主体となっていじめ防止に取り組む「いじめ一掃プロジェクト」を通じて、「いじめをしない、させない、許さない」心情の育成に努めています。

取り組みの内容は毎年アップデートされていますが、今回の提言を参考に、いじめで悩む生徒がいなくなるよう全力を尽くしたいと考えています。

皆さんが、ぜひこれからも学校の友達に呼びかけたり、先生に相談したり、自分たちにできるいじめを減らす取り組みを実践してくれることを期待しています。ありがとうございました。

続いて、「未来につなげ隊～SNSとの共生」グループです。SNS依存を課題として発表していただきました。

SNS依存について、統計データ、具体的な事例などを挙げながら説明をしてくださったことは説得力があって良かったです。そのことによって、SNSが日常の生活や学校生活において多大な影響を及ぼすことがよく伝わりました。

去年の東京都の調査で、中学生のスマホ所持率は84.8%ということがわかっています。そういった数字にも触れてもらうとSNSが中学生に身近で使用しやすい状況であることがより伝わったかと思います。

SNSに対する解決策をスマートフォンの機能面から3点紹介していることが良かったです。機能面による解決策のため、誰でも実行できる内容になっていました。

SNSの正しい使い方や危険性を伝える、生徒会役員による講習会を開催するという提案は、非常に素晴らしかったです。危険性と同時に、SNSのデメリットに焦点が当てられがちですが、正しく使えば様々なメリットが得られるということも、併せて伝えていただければよかったと思います。校内でのポスターや標語などの作成については、中学生だけではできないと区に提言していただきましたが、生徒会主催でコンクールを開催するというような手段を使えば、学校でもすぐにできるのではないのでしょうか。

練馬区教育委員会では「練馬区SNSルール」を策定して、各学校でSNSルールの周知啓発を行っています。また、小学校5年生と中学校2年生を対象とした情報モラル教室といったものを実施しているところです。

SNSルールについては、先ほどあまり人の目に留まっていないというお話もありましたので、教育委員会としても周知方法を工夫していきたいと改めて思いました。

SNSの使い方につきましては、自分と相手を守るために、ご家族や友達とぜひ今後も話し合って、できることから始めてほしいと思います。ありがとうございました。

次に、「One for Nerima Nerima for one」グループです。練馬区が、より子育てしやすいまちを目指すための方策を発表していただきました。

インタビューをして、児童手当がどのように使われているのか、支給金額についてどのように感じているのかを聞いていただきました。現状を把握するために、直接区民や現場の声を聞くことはとても大切なことだと思います。

オンライン空間によるコミュニティづくりという提案は興味深かったです。役所はいろいろなアプリ開発をしていますが、いかに多くの方に使用してもらうかが課題です。

アバターを使ったり、困ったことを回答してもらう仕組みなど、使用したいと思わせる仕組みを考えてくださった点は素晴らしかったです。一部お芝居を取り入れて伝わる工夫を凝らした発表も良かったです。古着回収のところを非常に丁寧にやっていただきました。

私も子どもが2人いますが、子どもが小さい頃は主に近所のママ友と着なくなった服を融通し合うなどして、幼稚園、中学生と、全て誰かのお下がりの制服を使用していたことを思い出しました。近所にママ友がいればそういったこともできますが、発表していただいた仕組みを使えば、近所にママ友がいない人にも、古着が十分に行き渡るようになるのではないのでしょうか。

男性向けの子育てセミナー開催の提案がありました。

発表にもありましたが、練馬区では男性向け子育て講座を実施していますが、まだまだ認知度が低く、参加者が少ないという現状があります。そういったことを踏まえたと、参加していない人に対して、その理由を聞いてみる、またどんな内容であれば参加したいと思うか、事前調査をしてみてもよかったかもしれません。

それから、自分たちにできることとして、家事の手伝い、ベビーカー利用者など保護者への配慮の気持ちを持つことが挙げられていました。一人一人のそういった配慮、行動の積み重ねが社会を変えていく第一歩であります。これは心強く思いました。ぜひ、皆さん一人一人が実践していただければと思います。私も実践したいと思います。

練馬区では、働きながら子育てができるように保育園の待機児童4年連続ゼロを達成するなど、子育てしやすい環境整備に取り組んでいます。

皆さんが大人になったときに練馬区で子育てしたいと思ってもらえるように我々も力を尽くしていきます。ありがとうございました。

最後になりますが、「Go To Tomorrow～命を守るために～」グループです。防災について発表していただきました。

中学生の防災講座への参加が少ないなど、なかなか防災意識を高められないということでしたが、学校でのポスター掲示やアンケートの実施など、学校内でできる取組を多く挙げてくださった点は非常に良かったです。

同じ生徒である皆さんから発信していただくことで、周りの生徒の関心、さらには保護者の方の関心も高まるのではないかと思います。

避難拠点の物資運搬のお手伝い、子どもの遊び相手、お年寄りの話し相手など、自分たちでできることを考えてくださっている点も、とても良かったです。災害時は、避難拠点を運営する人自身

も被災者です。実際には何人が無事に集まれるかも分かりません。そのようなときに中学生の皆さんがお手伝いをしてくれると、現場としてはとても助かると思います。また、慣れない避難生活で不安を抱える方も少なくありませんので、コミュニティを安定させ、精神的孤立を減らすことに発想を向けたことが、非常に素晴らしかったです。

解決策を数多く挙げていただきましたが、優先順位をつけて絞り込んでもよかったかと思います。絞り込むことによって、具体的なやり方、周知方法などを掘り下げて考えることができるので、実現に向けた説得力がぐっと増します。

災害から自分や家族を守るため、日頃の備えは非常に大切です。皆さんは今回の活動を通して、どのような備えが必要であるか、災害が起こったときにどのような行動をとればよいか学ぶことができたのではないのでしょうか。

今回得た知識を家族や友達、学校の友達にもぜひ伝えていただきたいと思います。ありがとうございました。

私からの講評は以上です。4グループとも熱心な調査と議論をしていただき、素晴らしい提言発表でした。提言の内容を今後の区の事業にできる限り反映できるよう取り組んでいきたいと考えています。

今回皆さんは、初対面の他校の生徒とグループを組み、一つの目標に向かって協力して様々な活動を行い、提言発表としてまとめ上げ、多くの人の前で発表をしました。6月に初めて出会った他校の生徒同士が今では強い仲間意識が生まれているのではないのでしょうか。この絆をどうか大切にしてください。

最後に、本日の議長を務めてくださった秋山さん、副議長を務めてくださった和泉さん、そして活動してくれた全ての子ども議員の皆さんに心から感謝を申し上げ、締めくくらせていただきます。

皆さん本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

副議長

これをもちまして、令和6年度練馬子ども議会を閉会します。

子ども議員の皆さん、また傍聴者の皆さん、長時間ご協力をありがとうございました。

令和6年度 練馬子ども議会の会議録作成にあたり、地方自治法第百二十三条第2項の規定を準用し、署名する

練馬子ども議会 議長

秋山 智琉

練馬子ども議会 議員

野中 菊実

練馬子ども議会 議員

堀田 真由

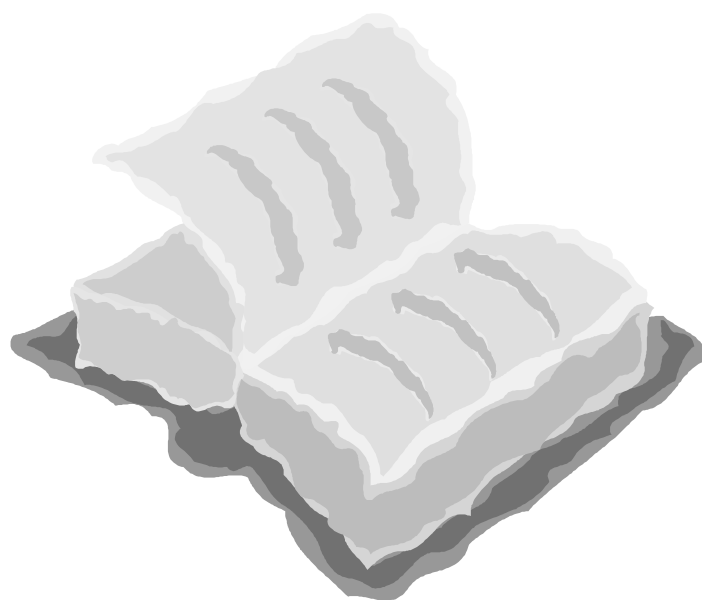
練馬子ども議会 議員

高木 菜名花

練馬子ども議会 議員

西松 佳音

資料



令和6年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

Aim for ZERO IZIME ～目指せいじめのない練馬区～ グループ

テーマ：様々ないじめについて

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
いじめに関するアンケート調査について。紙で実施すると、先生が回収しに来ることに焦りや周りの目が気になってしまう。 タブレットパソコンを活用し、classroomやgoogle フォームによりアンケートを実施するのはどうか。また、アンケートを無記名にすることで気軽に記入できるようになると考える。	練馬区では、年間3回の生活アンケートを通して、いじめの早期発見に努めています。生活アンケートのタブレット活用は、現状、各校の判断に委ねています。いじめに関する相談については、生活アンケート以外にも、子ども相談アプリ「ねりまホッとアプリ+（プラス）」や東京都の相談窓口など、タブレットを活用して多様な相談先に相談することができるようになっています。 いただいた提案も含め、よりよいアンケートの実施方法について検討していきます。 （教育指導課）
いじめについての理解を深めるために、総合的な学習の時間を活用し、いじめに関する調べ学習を行い、スライドを使った発表を授業に取り入れるのはどうか。	練馬区では、子供たちがいじめについて主体的に考えることを通して、いじめを許さない心を持ち、明るく楽しい生活が送れるようにするために、練馬区いじめ一掃プロジェクトを実施しています。その中でいじめ防止に係る作品の募集やいじめ一掃取組月間の設定の機会を通して、いじめへの理解を深めています。 いただいた提案も含め、よりよいいじめへの啓発を図るように検討していきます。 （教育指導課）
相談室の利便性を高めるために、スクールカウンセラーや相談員の方が学校に来る日を増やせないか。また、相談室の予約を担当の先生を通した事前予約などではなく学校のウェブサイトから予約ができるようにするのはどうか。	予約方法を含め校内の相談室の運用については、学校ごとの状況によるため、必要に応じて心のふれあい相談員の活動時間を増やすなど、学校と調整しながら、利便性を高めていきます。 なお、練馬区では小中学生向けの子ども相談アプリ「ねりまホッとアプリ+（プラス）」により、個人のスマートフォン等や練馬区立の小中学生用のタブレットパソコンから、匿名・チャット形式でカウンセラーに気軽に相談できるようにしています。 （学校教育支援センター）

令和6年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

未来につなげ隊 ～SNSとの共生～ グループ

テーマ：SNS依存について

子ども議員の意見・提案	区の取組状況など（予定も含む）
SNS依存の怖さを理解するために、学校の授業などの時間でSNS依存に関する調べ学習を行い、考えを深める時間を設けるのはどうか。	「SNS練馬区ルール」リーフレットを作成して学校に配布しています。各学校には、本リーフレットを活用して情報モラル教育に関する指導を充実するよう働きかけています。今後も、SNS依存を含め、情報モラル教育の充実に取り組んでいきます。 小学校第5学年および中学校第2学年で外部講師を活用した情報モラル講習会を実施しています。講習会の中で、SNS依存を扱うことについて、事業者と検討していきます。 (教育指導課)
SNS依存は思春期、青年期の若者に多い。若者にSNS依存について知ってもらうためにアニメや漫画のイラストを使ったポスターや標語の制作を増やしてほしい。	現在、SNS依存など情報モラルに関するポスターや標語制作の募集は行っていないため、いただいた提案について、関係部署と連携し、取組について検討していきます。 情報モラル教育の推進に向けて、生徒会主催のポスター・標語コンクールを開催するなど、子どもたちが主体となって行う取組の充実について各学校に働きかけていきます。 (教育指導課)
スマホ依存対策に活用できるスマホ機能やアプリの機能を学校で配布される手紙に記載して周知するのはどうか。	いただいた提案について、学校と教育委員会で協議し、SNS利用に関する資料を配布する際のより良い周知方法について検討していきます。 (教育指導課)
SNS依存によるコミュニケーション能力の低下に対しては、対面での人との交流を増やすことが対策になると考える。区には人と交流できる場を増やしてほしい。例えば、ベルデなど自然がたくさんある施設でSNSに触れない2泊3日のキャンプを企画してほしい。	各学校では、日常の授業の中で、ペアでの対話やグループでの話し合いを取り入れながら学習を進めています。また、学校に地域の方やゲストティーチャー等を招聘して行う出前授業等を通して、対面での人との交流の機会を確保しており、これからも継続していきます。 区立小・中学校の2泊3日の校外学習をベルデで実施しています。校外学習ではスマホの持ち込みができないため、対面でコミュニケーションをとることになります。 いただいたご意見については、今後の校外学習、ベルデの運営において参考とさせていただきます。 (教育指導課、保健給食課)

令和6年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

One for Nerima Nerima for one グループ

テーマ：より子育てしやすいまちを目指して

子ども議員の意見・提案	区の実施状況など（予定も含む）
子育てに関する悩みを相談し合える親同士のコミュニティが少ないので、子育てアプリなどによりオンライン空間でのコミュニティづくりを進めるのはどうか。	子育てをする家庭が、安心して身近な場所で気軽に相談、交流ができるよう、子育てのひろばや、練馬こどもカフェなどを実施しています。事業の実施に当たり、オンライン講座を開催するなど、子育て家庭が参加しやすい環境整備に取り組んでいます。 提案いただいたアバターやチャットを活用したオンライン空間でのコミュニティづくりについては、技術動向等を注視しながら、引き続き調査・研究していきます。 （こども施策企画課）
男性が子育てについて学び、情報を交換できる環境を整えてほしい。例えば、子育てセミナーを子育て初心者やある程度子育てがわかっている子育て中級者などレベル分けをして実施するのはどうか。	男性が家事や育児のノウハウを学びながら、家事等を家族がともに行うことについて考える場として、ねりマイクメン講座や父子キッチンワークを実施しています。 ねりマイクメン講座は、子育てに関心のある男性を含め子育て初心者向けの講演や体験学習などを実施しています。 父子キッチンワークでは、簡単な調理を通じて、父子の交流や家族で家事参加する機会となっています。 いただいた提案も含め、講座内容の充実を図っていきます。 （青少年課、人権・男女共同参画課）
子育て世帯の負担軽減のため、ベビー服などの古着回収ボックスを区内のスーパーなどに設置し、回収した子ども用の服を児童館で子育て中の親に無償提供する取り組みを推進するのはどうか。	練馬区の数か所の児童館では、行事として保護者が不要になった子供用の衣類を持ち寄り、無料で持ち帰ってもらう取り組みを行っています。行事名は館によって「おさがり交換会」など様々ですが、引き続き、子育て世帯の負担軽減を図る取組を積極的に広げていきます。 （子育て支援課）

令和6年度練馬子ども議会の提案等に対する取組調査票

Go To Tomorrow ～命を守るために～ グループ

テーマ:防災について

子ども議員の意見・提案	区の取組状況など（予定も含む）
防災講座などに中学生が参加することが少なく、防災に関する関心を持ち、学習する機会が少ないため、ポスターコンクールなどを開催し、興味関心を持てる機会を増やしてほしい。	ねりま防災カレッジ事業では、防災の基本となる「自助講座」や中学生を対象とした災害発生時の役割や技術を学ぶ講座等を実施しています。また、区ホームページでは、児童・生徒がわかりやすく日頃の備えを学べるようねりまキッズ防災ホームページを作成しています。 広く中学生世代に防災への興味関心を持ってもらえるよう、国が実施しているポスターコンクールなど様々な啓発事業を学校等を通じて周知していくとともに、防災学習コンテンツ動画の配信など多様な手法を活用し、学びの機会を創出していきます。 （区民防災課）
学校で実施している避難訓練では発災時の行動を学ぶことができるが、避難所での生活や、避難所で自分たちでもできることを知っている中学生は少ない。地震が起こった時の避難所での行動を学べる大規模な避難訓練を実施してほしい。	学校から依頼を受け、学校防災訓練に協力しています。防災講話や備蓄物資の紹介、資器材操作、起震車派遣等を行い、災害への備えについて伝えています。また、区内98か所の避難拠点は、それぞれ独自の訓練を実施しており、中学生を含む地域の方にご参加いただけます。訓練実施の際は、多くの中学生に参加いただけるよう、引き続き学校を通じた周知をしていきます。 （区民防災課）
発災時の素早い行動には避難のタイミングを理解していることや、避難先をあらかじめ決めておくことが重要なので、それらを学べる出前授業などを実施してほしい。	学校からの依頼を受け学校防災訓練で出前防災講座を実施しています。多くの中学校にご活用いただけるよう学校への周知を図っていきます。 （区民防災課）

過去の提案に対する区取り組み

年度	子ども議員からの意見・提案	区の取り組み
平成 21 年度	子どもの見守りパトロールの延長	14 時～16 時までを 14 時～18 時までに延長した。 ※現在は 16 時～19 時まで実施
平成 24 年度	練馬区の産業（伝統工芸、アニメ）について、もっと知ってもらうために PR 方法を工夫する。	平成 25 年度から新たにみどりバスの車内広告を利用した。 ※現在はバス車体にねり丸イラストをプリント
平成 26 年度	図書館のホームページの工夫、SNS を用いた情報発信、椅子の増設	HP の青少年ページの拡充、YouTube 公式チャンネルの開設 貫井図書館での椅子の増設
平成 27 年度	中高生向けのイベントやワークショップの情報を掲載した広報誌を作成、学校を通じて配布する。	中学生向けの講座情報を A3 ポスター形式で区立中学校へ配布した。
平成 28 年度	SNS 等を使った選挙への啓発活動の充実	選挙情報にダイレクトにアクセスできるような工夫、ポスターコンクールの入賞作品を X（旧 Twitter）、HP、展示会等で紹介
平成 30 年度	児童館を中学生に PR する周知について（配布プリントをカラーにすることや情報発信の工夫など）	各児童館のチラシをカラーにした。ホームページで事業紹介した。 フェイスブックや X（旧 Twitter）等を積極的に活用している。
令和 元年度	省エネに関する行動を習慣づける工夫	蛇口や電気のスイッチ等の近くに貼れる「節電・節水シール」の作成・配布した。
令和 4 年度	中学生の防災意識を向上するために、中学生自ら避難訓練の企画等を実施	光が丘春風小・光二中の避難拠点運営訓練に光二中の生徒が避難拠点ボランティアとして 25 名参加。当日、案内・誘導のほか、地域の方に備蓄や災害ダイヤルの説明等を行った。
	中学生のニーズに応え、楽しめる児童館にするために、児童館に関するチラシを中学校生徒に配布	児童館と中学校で調整し、新たに 3 校で全校生徒に「中高生向けおたより」の配布を開始した。
令和 5 年度	タブレットパソコンに接続するドングル（通信接続機器）はネットワーク接続が遅く壊れやすいため、学校で Wi-Fi 環境を作る	令和 6 年度に中学校、7 年度には小学校の校内ネットワークを Wi-Fi 化し、校内の通信環境を整備することとした。

※令和 2・3 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止

子ども議員へのアンケート集計結果

配布34 回収34

【子ども議会に参加した動機について】

(問1) 子ども議員になった理由を次の中から一つ選んでください。

先生に勧められて	21
面白そうだったから	11
その他	2
計	34

〔「その他」の内容〕

- ・自分から電話して応募した。
- ・生徒会役員に勧められた。

【オリエンテーションについて】第1回学習会(7月1日)

(問2) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	19
よかった	14
どちらでもない	1
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
計	34

(問3) 良かったと思う点は何ですか。(複数回答あり)

充実していた	21
よい経験になった	21
他校の生徒と交流できた	31
区のことをわかった	7
わかりやすかった	3
その他	1
計	84

(問4) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

部活などとの調整が大変だった	8
選挙制度のことがよくわからなかった	6
提言発表のことがよくわからなかった	2
時間が足りなかった	6
その他	3
計	25

〔「その他」の内容〕

- ・少し長かった。
- ・少し自由すぎて会議と自由時間のメリハリをつけてほしかった。

（問5） その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・アイスブレイクなどグループで協力し合うものがあり、早く打ち解けることができた。
- ・子ども中心に進んでいた。主体性を求めている感じがした。

【地域調査について】第2回学習会（7月6日）

（問6） 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	16
良かった	11
どちらでもない	7
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
計	34

（問7） 良かった点は何ですか。（複数回答あり）

充実していた	20
よい経験になった	23
提言発表の参考になった	15
その他	3
計	58

（問8） 良くなかった点は何ですか。（複数回答あり）

調査の時間が少なかった	8
別の場所を調査したかった	4
その他	3
計	15

（問9） その他、内容や運営について気が付いた点があればお書きください。

- ・私達を安全に連れていってくださり、感謝の気持ちです。毎回人数の確認や体調などを気に掛けてもらった。
- ・時間が足りなくはないけれど、かつかつでした。
- ・インタビューしてみて練馬区を良くしようという気持ちがよく伝わって良い参考になった。

【提言発表原稿作成について】第3回学習会(7月22日)

(問10) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	19
良かった	13
どちらでもない	0
あまり良くなかった	1
良くなかった	0
未回答(欠席)	1
計	34

(問11) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できた	24
他の人の意見を聴けた	24
みんなで協力できた	28
十分に検討できた	18
グループで意見を上手くまとめることができた	19
区の現状を知ることができた	9
計	122

(問12) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見を発言できなかった	4
みんなで協力できなかった	1
話し合いの時間が足りなかった	9
意見が上手くまとまらなかった	6
区のことを知ることができなかった	2
その他	1
計	23

(問13) その他、内容や運営について気が付いた点があればお書きください。

- ・もう少し区の情報を知りたかったので、資料がほしかった。
- ・少し遊びすぎていて、スライドが進んでいなかった。
- ・運営の方がサポートをたくさんしてくれた。

【子ども議会開会宣言・意見交換会・第4回学習会】(7月25日)

(問14) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	22
良かった	8
どちらでもない	1
あまり良くなかった	1
良くなかった	0
未回答(欠席)	2
計	34

(問15) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができた	23
区の現状が理解できた	6
よい経験になった	25
他のグループの考えが理解できた	20
意見交換の結果を提言に反映できた	19
その他	3
未回答(欠席)	2
計	98

〔「その他」の内容〕

- ・色々な視点から考えることができた。

(問16) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

活発に意見交換ができなかった	3
区の現状が理解できなかった	4
他のグループの考えが理解できなかった	1
その他	2
未回答(欠席)	2

〔「その他」の内容〕

- ・アドリブで質問に答えられなかった。
- ・スライドづくりが間に合わなかった。

(問17) その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・意見交換会の時間をもう少し増やしてほしい。
- ・意見交換を区の職員にサポートしてもらえて、支えになった。

【子ども提言発表会について】(8月1日)

(問 18) 参加してみてどのように感じましたか。次の中から一つ選んでください。

大変良かった	26
良かった	7
どちらでもない	1
あまり良くなかった	0
良くなかった	0
計	34

(問 19) 良かった点は何ですか。(複数回答あり)

自分の意見が上手く発表できた	28
教育長から講評してもらえた	18
よい経験になった	33
発表会の雰囲気を楽しめた	25
議員の役割を理解できた	19
その他	2
計	125

〔「その他」の内容〕

- ・良い緊張が体験できた。
- ・自分たちの意見を色々な人に聞いてもらえた。

(問 20) 良くなかった点は何ですか。(複数回答あり)

形式的だった	3
上手く発表できなかった	2
時間がなかった	1
もっと準備したかった	10
その他	3
計	19

〔「その他」の内容〕

- ・演技などをいれてわかりやすい工夫を増やせばよかった。
- ・緊張で上手くいかないときがあった。

(問 21) その他、内容や運営について気がついた点があればお書きください。

- ・他のグループの発表に工夫が凝らされていて、見ていて楽しかったです。
- ・運営の方々が優しくしてくださった。
- ・講評で良いところもあり良くなかったところも言ってもらえて、次につなげたいと感じた。
- ・もう少し1チームあたりの時間を短くしても良いのではと思った。

【練馬子ども議会を振り返って】

(問 22) 子ども議会の期間(5日間)について、どのように感じましたか。

長い	1
少し長い	3
ちょうど良い	15
少し短い	12
短い	2
未回答	1
計	34

「長い」「少し長い」を選んだ理由

- ・半日間座っているのが大変だったため。
- ・6時間もあって、1日の予定が削れてしまうから。
- ・体感はあまり長く感じませんでしたが、振り返ると調べ学習や意見交換会などの印象が強く長く感じました。

「ちょうど良い」を選んだ理由

- ・意見まとめ、調査など、全ての行程を十分に行うことができたため。
- ・原稿を自分の納得がいくまで作り直すことができたから。小道具やインタビューのやり方まで細かく考えることができたから。
- ・調査をする時間が十分に設けられていて無理なく参加できたから。
- ・部活を休みすぎることなく、発表原稿を作るにはちょうどいい時間だったから。
- ・意見もしっかりまとまったし、グループの子とたくさん仲良くなれたから。

「短い」「少し短い」を選んだ理由

- ・深堀ができなかったから。もう少しわしくやりたかった。
- ・もう1日あればもっと内容を議論できた。
- ・1日目に他の学校の子達と仲良くなれたため、時間が過ぎるのがあっという間だった。
- ・発表準備などの演習ができて工夫を凝らす時間があまり確保できなかったから。
- ・期間が短い分1日にやる内容が多く、一度休んでしまうと取り戻すのが難しかったりした。また、あまりにも楽しかったのも、もっと調査内容を練って意見をしたかった。

(問 23) 全体を通して練馬子ども議会は皆さんの意見を十分に表明できる場となりましたか。

そう思う	21
まあそう思う	13
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
わからない	0
計	34

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・グループ内や全体で意見を言える場が多かったから。
- ・たくさん話し合っって自分の思ったことなどを共有し、発表できたから。
- ・全員の意見を十分に反映した提言や、他グループに対する意見を言うことができたため。
- ・話し合いをしていくうちに意見が良くなり、自分一人では考えられないくらい深くなっていったから。
- ・気軽に意見を出せるような雰囲気づくりがされていたため、とてもいい考えを知り、伝え合うこともできたから。
- ・時間もたっぷりあったし、職員の方々が子ども議員の交流を優先してくれたから、リラックスして意見を出せた。
- ・日常では伝えることのできない、自分の思い、考えを伝える機会になった。
- ・「もっとこうしたほうがいいのではないか」というのを心の中にしまってしまったから。自分の意見をもっとみんなの前で言えばよかったです。

(問 24) 今後、子ども議員の経験を活かせる(または、活かしたい)と思いますか。

そう思う	23
まあそう思う	9
あまりそう思わない	0
そう思わない	0
わからない	1

「そう思う」「まあそう思う」を選んだ理由

- ・学校で前に出て、発表することになった時、今回経験したまとめ方や工夫して発表することを活かしたい。
- ・まちの人にインタビューをし、練馬区の色々なことを知れた。他の人にも伝えたい。
- ・初対面の人と意見を交換し、議論を行うという、他では得ることのできない経験だった。
- ・スライドの作成や発表の構成の作り方、様々な考え方などを活かせると思う。
- ・初対面の人とも積極的に話し、チームワークを築くことができた。多くの人の前で発言できるようになった。
- ・初対面の人と協力して、考え、まとめ、発表することで度胸やコミュニケーション能力が身に付いた。

(問 25) 最後に「練馬子ども議会」について何でも意見を書いてください。

- ・感想のようになりますが、他のグループとの意見交換という場に立てて、また意見を主張できて良い経験になったと思います。また、もう少し明るく話しやすい場になるよう、環境づくりを行ってもらえると良いと思いました。
- ・他校の人とたくさん交流でき、発表でき、楽しかったです！
- ・色々な人と交流できて、とても楽しかったです。また普段関わることがないような人と関わってとても良い経験になりました。
- ・学習会での話し合いでグループの人と意見を交流するのが楽しかった。そして、グループで作り上げた提言を自分の納得のいく形で発表できたのがよかった。
- ・夏休み中でも平日は何かと予定があるため、休日に行ってほしいです。

- ・とても貴重な経験ができたため、大変なこともあったけれど、やってよかったと思えるような場でした。
- ・他校生と関わることはあまり多くないので、こういう機会をもっと設けてもよいと思いました。
- ・意見交換会の時間はもっとあったほうがいい。グループの仲が良かった！
- ・今回はできるだけ形式的でない発表を心掛けましたが、まだ堅い感じです。もう少しポップな感じで気軽に意見を言える雰囲気づくりを目指してほしいです。
- ・アイスブレイクがあって、みんなとの距離が自然と縮まったから良かったです。
- ・議員制度について理解することができたり、発表する力がついたり、他校の生徒と交流することができ、自分の考えをさらに深めることができたり、練馬区について理解することができた。また、同じグループの人と仲良くなれてとても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・こういった機会を設けてくださり、ありがとうございます。自分の意見を深めることができたし、地域調査など、実際にこの目で見ることでよかったです！！

練馬子ども議会報告書

令和6年（2024年）12月 発行

編集発行 練馬区教育委員会事務局こども家庭部青少年課

〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-1

TEL 03-5984-1292（直通）

Mail : SEISHONEN03@city.nerima.tokyo.jp

ホームページ : <http://www.city.nerima.tokyo.jp>
